

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：31203

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01036

研究課題名（和文）西夏王国の地方支配 西夏語文献に現れる経略使・監軍司の職掌の解明を中心に

研究課題名（英文）The local government of the Xi Xia Kingdom

研究代表者

佐藤 貴保（Sato, Takayasu）

盛岡大学・文学部・教授

研究者番号：40403026

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、西夏王国の西夏語で書かれた行政文書や法令のなかから、西夏王国の地方官庁に関わる記述を抽出、解読し、地方官庁がどのような業務を行っていたのか、西夏が地方をどのように支配しようとしていたのかを目的とした。西夏は地方を十数の地区に分け、それぞれに監軍司とよばれる官庁を置き、さらに複数の「経略」とよばれる官庁を設置していた。行政文書や法令の条文を解読したところ、経略は近隣の複数の監軍司から中央政府へ出された軍官の人事に関する報告や問い合わせを取り次ぎ、それに対する中央政府からの指示を各地の監軍司に伝達しており、経略が中央と地方の監軍司とを結ぶ部署として機能していたことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

西夏王国が地方を支配するにあたり、征服した地域の在地の有力者を監軍司の幹部に任命していたことは、既存の文献資料や、当研究代表者が石窟寺院の供養人壁画や題記によって明らかにしていたが、本研究によって、西夏の中央政府も「経略」を設置し、官員の人選に関与していたことが新たに判明し、西夏の地方支配を地方分権的に行っていたとは必ずしもなく、中央政府が一定程度の影響力を持っていたことが確認された。本研究課題の成果は、同時代の東アジア・中央ユーラシア諸国家ないしは西夏の後継に大帝国を築いたモンゴル帝国の統治体制の研究にも裨益するものとなった。

研究成果の概要（英文）：This research project aimed to extract and decipher Tangut-language descriptions in administrative and legal documents related to the local government offices of the Xi Xia Kingdom. The objective was to understand the operations of the local government offices and how the Xi Xia attempted to control the region. The Xi Xia divided the region into more than a dozen districts, each of which had a local military department and a number of government offices called "Jing-lue." The administrative and legal documents revealed that the Jing-lue served as intermediaries for relaying reports and inquiries regarding the personnel matters of military officers from multiple neighbouring local military departments to the central government. The Jing-lue also communicated instructions from the central government to the local military departments, thus functioning as interdepartmental liaisons.

研究分野：中央ユーラシア史

キーワード：西夏 地方行政 経略 監軍司

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究代表者はこれまで、11世紀前半~13世紀初頭に現在の中国寧夏回族自治区、甘肅省西部、内モンゴル自治区西部にあたる地域を支配した西夏王国の地方(都が置かれた寧夏回族自治区銀川市を除く地域)における官制の解明を進めてきた。研究にあたっては西夏が、隣国の宋・遼・金王朝のような、自国の各種制度の概要をまとめた書物を残していないため、20世紀初頭にロシアの探検隊が内モンゴルのカラホト遺跡で発見された西夏時代の文献(多くは西夏語で書かれる)を主たる研究対象としてきた。

宋の文献には、西夏が監軍司とよばれる官庁を地方に設置し、在地の有力者が治めていたとする記述があることは以前から知られていた。その後西夏語の解読が進み、20世紀末にはカラホト出土の12世紀後半に編纂されたとされる西夏の法令集『天盛改旧新定禁令』(以下『天盛』)において地方に監軍司が設置されていたことが確認された。また、研究代表者が甘肅省にある石窟寺院壁画を現地調査したところ、西夏時代の特定の氏族が監軍司の幹部職に就いていた事例があることを明らかにした。

さらに『天盛』の条文から、東西2つの「経略(もしくは経略使、経略司とも表現される)」とよばれる官庁があり、これも地方を所管していることが新たに明らかになった。だが、経略と監軍司の具体的な職掌の違いや、両官庁の相互の関係の有無、及び経略と朝廷との関係は未解明であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、

1) 西夏王国が地方に設置した経略や監軍司とよばれる官庁がどのような職務を遂行すべきものとされていたか、西夏の朝廷が制定した『天盛』の条文を解読することによって明らかにすること。

2) 経略や監軍司が法令集の規定通りの活動をしていたのか、西夏で書かれた官文書を解読することによって検証し、両官庁が実際にどのような職務を遂行していたか明らかにすること。

3) 西夏の朝廷が経略や監軍司を設置することで、地方をどのように統治しようとしていたのかを明らかにすること。

3. 研究の方法

『天盛』のテキスト中から経略・監軍司が現れる条文を抽出し、解読を行った。そして、法令上、両官庁がどのような職務を行うことになっているか、両者の職務上の連携があるのか、あるとすればどのような場合に行われるのか、中央官庁と経略・監軍司がどの程度結びつきがあるものとされているのかを明らかにした。当初、『天盛』の4種類のテキストを所蔵するロシア科学アカデミー東方文献研究所(サンクト=ペテルブルク市)で実見調査し、全種類のテキストを校勘しながら解読していくことを予定していたが、令和元年度と2年度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大で、令和3年度以降はロシア軍のウクライナ侵攻によって、ロシアへの渡航が困難となり、公刊済みの1種類のテキストの写真から解読を行うこととした。

さらに、経略・監軍司が発信主体や受信者となっているカラホト出土官文書を抽出し、解読を行うことによって、経略・監軍使がどのような官庁と文書のやり取りを行っていたのか、両官庁が具体的にどのような業務を行っていたのかを明らかにしようとした。官文書もロシア科学ア

カデミー東方文献研究所が所蔵しているため、上述のような事情により実見調査ができず、公刊済みのテキストの写真を基に解読、考察を行った。

4．研究成果

『天盛』の条文によると、経略は地方官庁の中で最上位のランクで、中央の最高官庁である中書・枢密に次ぐ位置づけとなっていた。また、地方十数か所に設置されている監軍司のうち、1か所の監軍司だけは「経略」に属しないとの文言がある。この条文から、監軍司は1か所を除いて、経略に隷属する官庁と位置付けられていることが判明した。そのほか、監軍司が設置されているところには監軍司の倉庫と経略の倉庫が並列して設置されていることをうかがわせる条文が存在しており、経略が単なる監軍司を統括する機関だけでなく、地方の職務を監軍司と分担して行っている可能性があることも明らかになった。

カラホトから出土した官文書を解読したところ、経略が国境警備の担当の士官に対して辞令を発している文書の存在が確認された。また、別の官文書では、カラホトにいる元軍官だった流刑人を再び軍官に起用することの是非を中央官庁に何う趣旨の記述が検出された。この文書には、経略の長官を務めている人物の肩書が書かれており、同時に中央官庁の幹部の職も兼任していることから、実際に任地には赴いていない、いわゆる遙任の長官であることが判明した。これら官文書を見る限り、経略は地方の軍事関連を担当する軍官の人事に関する業務を掌っていたことが確認された。

経略に相当する2音節の西夏語の発音はそれぞれ、漢語の「経」の字と「略」の字の発音に近似している。隣国の中国宋(北宋)王朝では、西夏との国境付近の軍官の人事を掌る官庁として経略安撫使という官庁が設置されていた。職掌からして西夏の経略は、北宋の経略安撫使をモデルにしていた可能性が高いということが明らかになった。研究代表者はこれまで、西夏の官制は遼などの中央ユーラシアの遊牧国家の影響を受けていたのではないかと考えてきたが、経略のように、中国王朝の官制の影響を受けて新たに設置されたものもあることが本研究で明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 SATO Takayasu	4. 巻 3
2. 論文標題 Verb Prefixes in the Tangut(Xixia) Tiangsheng Code: Verbs for 'Send Document' and Their Prefixes	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino Tibetan Languages	6. 最初と最後の頁 55 67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤貴保	4. 巻 30
2. 論文標題 榆林窟第29窟供养人像に見る西夏の河西回廊支配	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 比較文化研究	6. 最初と最後の頁 23-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 佐藤貴保
2. 発表標題 西夏の地方支配機構 監軍司と経略を中心に
3. 学会等名 遼金西夏史研究会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------